

風景に飾^{フシ}が流れると、情景になる。

情念の美学

浪曲映画祭

2020 6.26 金曜日 → 30 火曜日

ユーロライブ／ユーロスペース

浪曲映画祭

情念の美学

26日(金)「韋駄天数右衛門」上映後

藩主・浅野内匠頭の仇討ちのため、江戸に潜伏中の赤穂浪士たち。その一人である不破数右衛門は、花見の場所へ通りがかった折、絡まれている一人の婦人を助ける。聞けば、役者の女房というその婦人から芝居に招待されるも、気が乗らぬ数右衛門。後日、同志の堀部弥兵衛に連れられ、中村座へと出かけた。講談から生まれた「赤穂義士伝」のうち、粗忽者で知られた不破数右衛門の一席。

26日(金)「忠臣蔵 暁の陣太鼓」上映前

某藩の槍術指南役であったが、酒の上の争いで朋友を殺してしまい、今は浪人となって、両国で道場を開いている俵屋玄蕃。ある晩、屋台蕎麦屋がやってくる。蕎麦屋とは世を忍ぶ飯の姿、まことは赤穂浪士・杉野十平次。ひそかに吉良郎を探っている。玄蕃はそれを目で見抜く。杉野は玄蕃を避けるようになるが、両国橋のたもとで再会する。

27日(土)「母の瞳」上映後

高田馬場の仇討で名を挙げた中山安兵衛のところを立派な武家の母娘が訪れる。聞けば築地鉄砲洲の堀部金丸の奥方と娘。高田馬場で安兵衛に氣にいった主人が「婿になってもらえ、ダメだったら家から追い出す」と言うので婿養子になってくれと頼みに来たのだった。安兵衛が断ると、母親は自害しようとする。安兵衛はこれを押しとどめ、飲んで飲んで飲み尽くして愛想尽かしさせ離縁させようと腹づもりで申し出を受ける。

27日(土)「母の湖」上映前

義経は戦いで活躍し、評判が高まるにつれ兄の頼朝と対立し、ついに義経追討の議が決められる。京都にいた義経は静の機転によって西国へ逃れたものの、吉野山で義経と生き別れになり、静は山僧に捕えられ鎌倉へ護送される。頼朝に評判の舞を所望された静は、義経との別れの曲を舞い、頼朝を激怒させる。しかし愛する者を想う気持ちに深く同情した妻の北条政子によって静御前は命を救われる。

28日(日)「国定忠治」上映後

正月の間、風邪で寝込んでいた国定忠治。体調も良くなったので、命を狙われないように堅気の姿で年始回りをする。ふと立ち寄った上州馬庭村の床屋にて、その土地の親分、女侠客の火の車のお萬と出会う。今評判の火の車のお萬が一体どれだけの人物か見定めるべく、忠治は正体を隠してお萬の賭格へ潜り込む。博打に勝ち続ける忠治に対して壺屋がイカサマを仕掛けるが、忠治はそれを見破る。さて、一体どうなりますやら。

28日(日)「雷電」上映前

越後一の造り酒屋、伊勢屋に働く丁稚勇蔵は無類の相撲好きで、旅相撲が来ると仕事を放りだして朝から晩まで相撲見物に出かけてしまいう有様。そんな中、大関柏戸一行が越後へやってきた時に、力士になるために弟子入りしようと思いき、酒屋の親方清兵衛に暇をもらおうと談判したところ、親方が十七年前のたとある物語を話し出した…。

29日(月)「春秋一刀流」上映前

ときは天保、下総で縄張り争いを続ける笹川繁蔵と飯岡助五郎の両一家。繁蔵方の用心棒は、平手造酒という。この男、元は北辰一刀流の祖・千葉周作の門弟で、師匠に勝ると言われたほどの剣豪でありながら、酒乱のために破門されて、今ではやくぎの用心棒である。己の身を案じてくれる繁蔵のため、平手は三日間の禁酒を誓い、数多の賭場が開かれる鹿島神宮の祭礼“棒祭り”へ、出かけていく。

30日(日)「浪曲師になってしまった!」上映後

またも些細なことで喧嘩して、柴又を飛び出した寅さん。旅先の北海道・網走の町で出会った女は、リリー・松岡という旅回りの歌手だった。どこか境遇の近い二人は、岸辺で東の間の身の上話をし、行先も告げずに別れていく。これが運命的な出会いとは知らぬまま…。マドンナ役のリリーを演じるのは浅丘ルリ子。この後、長い年月をかけて出会いと別れを繰り返す二人の、出会いの一作。1973年公開、寅さんシリーズ第11作の浪曲化。

30日(日)「浪曲師になってしまった!」上映後

理不尽な運命に翻弄されて貰った勝子、それを乗り越えたとき、10年間離れていた浪花節がかげえのないものだと気づく。やがて本馬亭で浪曲師に復帰した勝子は、反時代的な愛情劇を喰ひ上げる迫真の口演で浪曲ファンを圧倒する。「梅山家の縁談」は軍人家族の当主梅山大佐が決めた異母姉妹の妹清子の縁談を破談にし、姉豊子を後釜に据えようと継母美佐子は悪魔のような邪悪な行動に…。体験しよう、勝子の流星浪花節!!

映画1 元禄忠臣蔵 前編・後編

必見!巨匠・溝口健二脚本・依田義賢による223分の超大作忠臣蔵映画

真山青果の原作を、松竹と前進座の提携で映画化した溝口健二監督作品。殿中・松之廊下での刃傷に始まり、主君の仇討ちを心に誓った大石内蔵助以下の義士たちが本懐を遂げ切腹するまでの2年弱を、徹底したリアリズムで描いた大作。ワンシーンワンカットの撮影、厳格な時代考証に基づいた美術(美術監督・水谷浩/新藤兼人も参加)や衣裳、討ち入り場面がなくその後の切腹に至るまでを描く構成など、必見の忠臣蔵映画。

1941年/1942年/松竹/112分・111分/F 監督:溝口健二 脚本:依田義賢 出演:河原崎長十郎、中村錦右衛門、嵐芳三郎、山岸しづ江、三折萬豊

26日(金) 12:15

映画2 韋駄天数右衛門

銘々伝一情に胸い粗忽者数右衛門が走る!活弁、三味線伴奏付きで!

赤穂義士の一人、浪人でありながら参画した不破数右衛門を描いた作品。粗忽者だが憎めない人柄の数右衛門は、ある時誤って家僕を斬り御成敗を覚悟するが、浅野内匠頭の温情によって赤穂城下を去ることで御成敗を免れる。三年後、東海道を赤穂へと急ぐ早駕籠によって恩義ある主君の切腹を知った数右衛門は、すわ一大事とばかりに、赤穂へ向けて韋駄天走りするのだった…。羅門光三郎が数右衛門と大石内蔵助の二役で主演。

1933年/宝塚キネマ/78分/F (提供:国立映画アーカイブ) 監督:後藤崑山 脚本:波多野理一 出演:羅門光三郎、坂東太郎、静田三三夫、市川花紅、市川竜男 活弁:坂本龍光 三味線伴奏:沢村美舟

26日(金) 16:40

映画3 忠臣蔵 暁の陣太鼓

のんだくれ安と俵屋玄蕃 赤穂義士のスタアふたりが殺陣で見せる

高田馬場の決闘で男をあげた“のんだくれ安”の異名を持つ中山安兵衛。その安兵衛に惚れていたお勝は、安兵衛が堀部家の養子になったことで諦め、女刺客・三日月お勝となり、刺客・俵屋玄蕃の門を叩く。やがて赤穂事件が起き、安兵衛は義士となるが、一方、仇討ちを恐れる吉良家は玄蕃に加勢を頼みこむのだった…。近衛十四郎が『元禄名倉伝』に続いて再び俵屋玄蕃を演じ、見事な殺陣を披露している。

1958年/松竹/97分/F 監督:倉橋良介 脚本:中沢信、田辺朝日 出演:森美樹、嵯峨三智子、近衛十四郎、名和宏、榎本健一、沢村国太郎、市川南海

26日(金) 19:00

映画4 母の瞳

「母もの」といえば三益愛子と松島トモ子そこに伊丹秀子の泣かせ節

伊丹秀子の名調が日本津々浦々で涙をほりつとったNHKラジオ小説を映画化した三益愛子の「母もの」映画。空中サーカスのスター、おさよは、五年前にある老婆から預かった盲目の幼い娘たま子を育てていた。ある日、たま子の実の母親、美津子が現れ、おさよは娘をとられるのではないかと疑心暗鬼になる。美津子はたま子会いたさに毎日サーカスを訪れるようになるが、そんなある日、思わぬ出来事が三人の運命を大きく動かしてゆく…。

1953年/大映/87分/D 監督:安田公義 脚本:八住利雄 出演:三益愛子、松島トモ子、入江たか子、見明凡太郎、藤原釜足、上田吉次郎、大泉滉、伊丹秀子 監督:山村浩二 口演:国本武春

27日(土) 12:15 30日(火) 16:10

映画5 母の湖

伊丹秀子の浪曲が原作 日本の母・三益愛子を名優たちが引き立てる

無声映画時代にデビューし、生涯に100本以上の映画を監督して、多くの「母もの」映画も手掛けたベテラン・小石栄一が、伊丹秀子の浪曲をもとにして、運命に翻弄される母を描いた「母もの」映画。日中戦争時代。産婦人科に勤める看護婦の加代には娘がいたが、病院で若い女が産んだ私生児を引き取り、二人の幼子を育てていた。戦争の激化で子供と別れて満洲に渡り十数年の後、引き揚げて来た加代は子供たちを探し求めるが…。

1953年/大映/86分/D 監督:小石栄一 脚本:笠原良三 出演:三益愛子、沢村美智子、白鳥みづ江、内山明、船越英二、根上淳、浦辺粂子、潮万太郎、高松英郎

27日(土) 15:30

映画6 母なき家の母 祖国の花嫁

大戦中、浪曲にも“役割”が…。 「母なき家の母」(不完全版)

伊賀山(監督)・雲月(浪曲)は、戦中の浪曲映画の黄金コンビだった。出征した父の妹(叔母)と二人で暮らす少年のもとに、父親の戦死の報せが届く。折しもそこへ故あって家を出ていた少年の母が戻ってくるが…。

1941年/日活/96分※現存27分/DVD(神戸映画資料館) 監督:伊賀山正徳 出演:中田弘二、見明凡太郎、村田知栄子、水島道太郎、風見章子、天中軒雲月

27日(土) 19:40

映画7 国定忠治

アメリカ占領下、チャンバラを封印した苦心の国定忠治像。

終戦後、占領軍が発表した映画における製作禁止テーマによって、時代劇は厳しい制約を課せられた。俗に言う「チャンバラ禁止令」である。そんな中、侠客・国定忠治を「庶民の味方、貧乏人の味方、虐げられた人間の味方」、すなわち戦後民主主義を体現する人物として造形し、「絶対に刀を抜かない」という条件の下で検閲を通し製作された作品。当時の社会背景抜きには語れない、剣戟王・坂妻がチャンバラを封印した異色の忠治映画。

1946年/大映/73分/F 監督:松田定次 脚本:小川記正 出演:坂東妻三郎、羅門光三郎、尾上菊太郎、飯塚敏子、原型四郎、島田照夫、香川良介

28日(日) 13:15

映画8 雷電 続雷電

「天下無双」の名力士 雷電為右衛門の立伝を名匠・中川信夫が映画化

「力士伝」をネタとした浪曲は少なくないが、この映画は、浪曲好きとして知られる作家・尾崎士郎が著した相撲力士・雷電為右衛門の伝記小説を、中川信夫監督が映画化したものだ。物語は天明の浅間山大噴火(1783年)に始まる。相撲の一門に入門し江戸へ出た太郎吉が、恋人のおきんと共に、さまざまな運命に翻弄されながら、やがて「雷電」の四股名を持つ大力士となってゆくまでを、切ない男女の物語として描いている。

1959年/新東宝/79分・81分/D 監督:脚本:中川信夫 脚本:杉本彰、中川信夫 出演:宇津井健、北沢典子、坂東好太郎、林幹、沼田曜一 ※「続雷電」は別途チケットが必要です

28日(日) 16:15 続雷電 28日(日) 18:30

映画9 召集令

現存最古の浪曲トーキー映画は日露戦争の召集令状が届く「時局浪曲」

桃中軒雲右衛門の弟子・東家葉燕による、実話を基にした時局浪曲「召集令」を、生涯に200本以上の映画を監督した大衆娯楽映画の巨匠・渡辺邦男が映画化した浪曲トーキー映画。日露戦争時代。広島県で、妻子と共に貧しい暮らしをしている松岡は、村人から慕われる正義感の強い男だったが、強欲な地主にいたぶられていた。ある時、地主に反逆した松岡に巡査や地主の娘も加勢するが、そんな頃、松岡に召集令状が届く…。

1935年/日活/78分/F (提供:国立映画アーカイブ) 監督:脚本:渡辺邦男 出演:中田弘二、広瀬恒美、星ひかる、高木永二、中野好子、若太刀芳之助、黒田記代、沢村貞子 口演:東家葉燕

29日(月) 11:50

映画10 忠次旅日記 デジタル復元版

日本映画史の大傑作を坂本頼光の活弁と沢村美舟の三味線伴奏で!

日本映画史に残る傑作として名高い無声映画、赤城の山から逃げ延びた忠次は、越後の造り酒屋に番頭として身を隠すが、やがて正体が発覚し、再び追われる身に…。秀逸なユーモア、移動撮影の妙、絶妙な字幕の挿入、大河内傳次郎の激しい殺陣。叙情的にして悲壮な美に貫かれた傑作。本来3部作でプリントは焼失したとされていたが、1991年に発見され復元された、第2部の一部、および第3部の大部分による復元版である。

1927年/日活/107分/D (提供:国立映画アーカイブ) 監督:脚本:伊藤大輔 出演:大河内傳次郎、中村英雄、澤蘭子、伏見直江、磯川元春(終映後、声帯模写活弁「国士無双」あり)

29日(月) 13:30

映画11 春秋一刀流

任侠映画の超人気キャラ、剣客・平手造酒を題材にモダン時代劇の傑作

浪曲の定番「天保水滸伝」は、利根川流域の俠客たちの抗争にまつわる物語である。抗争の一方の新興勢力・笹川繁蔵の用心棒を務める剣客・平手造酒は、「天保水滸伝」の登場人物の中で最も人気のあるキャラクターだ。その平手を片岡千恵蔵が演じる。平手と共に明日を夢みる三人の仲間が結集するが、抗争の中で、一人また一人と倒れてゆく…。伊丹万作、山中貞雄の流れを汲む、丸根賛太郎監督のデビューとなるモダン時代劇の傑作。

1939年/日活/74分/F (16mm) 監督:脚本:丸根賛太郎 出演:片岡千恵蔵、沢村国太郎、原健作、志村喬、轟夕起子、阿部五郎、市川小太夫、香川良介

29日(月) 18:30

映画12 岸壁の母

シベリアからの息子の帰還を舞鶴港で待ち続ける母 浪曲歌謡映画の代表作

へ母は来きた、今日も来た、この岸壁に今日も来た、のフレーズが日本中を泣かせた、浪曲師・二葉百合子の大ヒット曲の映画化。終戦後、ソ連(現ロシア)に抑留された息子が引揚船で戻ってくるのを待つ京都府・舞鶴の港の岸壁に立ち続ける母の姿を描いた歌謡映画。監督・大森健次郎は、日本映画の黄金期に東宝に入社、黒澤明などの助監督を務めた後、映画が斜陽となった1973年に「20歳の原点」でデビューし、これが二作目。

1976年/東宝/93分/F 監督:大森健次郎 脚本:村尾昭 出演:中村玉緒、荻野静、鹿又裕司、江藤潤、林寛子、伊藤敏孝、大門正明、伊藤雄之助、二葉百合子

30日(火) 14:10

映画13 浪曲師になってしまった!

浅草木馬亭の浪曲師たち

失明した少女とコント作家志望の若者が時を超え選んだ浪曲師という生業

師匠・福太郎を入門3ヶ月で亡くした玉川太福が、浪曲全盛期を生き抜き、過去への未練もなくあるがままの今を晒し、まばらな客席に向って唸る本馬亭の浪曲師たちと出会う浪曲修業エピソード。5歳で失明、11歳で岩手の山村を旅回りの浪曲一座に加わって旅立ち、1ヶ月後に初舞台を踏む大利根勝子のあまた艱難に遭遇しても全て克服し、形振り構わず生きてきたソウルフルな波瀾万々エピソード。ラストでこの二人が融合するドキュメンタリー。

2019/秀秀真/70分/D 監督:伊勢哲 出演:大利根勝子、玉川太福、玉川桃太郎・祐子、五月一朗、富士琴路、玉川みね子、玉川奈々福、国本武春 主題歌:カーネーション

30日(火) 18:00

浪曲映画傑作選 1 呼子星

三益愛子が浪曲の曲師を演じる「母もの」映画の傑作。誤って人を事故死させたことで幼い娘と別れ服役した主人公は、20年の刑期の後、成長した娘が結婚することをを知るのだった…。

1952年/大映/83分/D 監督:吉村廉 出演:三益愛子、松島トモ子、広沢虎造、寿々木米若

27日(土) 17:50

浪曲映画傑作選 2 赤穂義士

赤穂義士伝から四つのエピソードを、寿々木米若、梅中軒雲童、富士月子、玉川勝太郎の四代浪曲師がリレーしてうなって聴かせる、ユニークなオムニバス浪曲映画。

1954年/大映/98分/D 監督:荒井良平 出演:黒川弥太郎、坂東好太郎、進藤英太郎

28日(日) 11:30

浪曲映画傑作選 3 新佐渡情話

佐渡の貧しい家に引き取られた娘がその家の息子と心を通わせるが、成長した二人には皮肉な運命が待っていた…。「佐渡情話」の人氣にあやかって製作された元祖・浪曲映画。

1936年/日活/78分/D 監督:清瀬英次郎 出演:黒川弥太郎、花井蘭子、田中泰子

29日(月) 16:50

浪曲映画傑作選 4 世紀は笑ふ

浪曲界のスーパースター・広沢虎造の自伝的な要素を持った出世物語。成功の影にあった友情、そして恋愛を、涙と笑いにくるんで描いた、映画ファン、浪曲ファン必見の傑作。

1941年/日活/93分/F (提供:国立映画アーカイブ) 監督:マキノ正博 出演:杉狂児、広沢虎造、轟夕起子

30日(火) 12:10

映画ミーツ浪曲——浪曲映画——の再発見

1929年、映画は無声からトーキーになったことで、演出の大転換を迫られる。多くの時代劇は人形浄瑠璃や歌舞伎のように、義太夫が節と語りで物語を回す日本の伝統的な演劇形式を踏襲、義太夫に代わる役割を浪曲や琵琶通りに託した映画—浪曲トーキー、琵琶トーキーなるものが登場する。

1928年のラジオの全国放送化、SPレコードの本格普及で大ブレイクした寿々木米若の浪曲「佐渡情話」に目を付けた日活が浪曲「佐渡情話」（1934年）を映画化して大成功を収めると、それを契機に各社はあたかも今日の映画界がベストセラー小説やマンガを映画化するように、浪曲口演付きや浪曲・講談演目を脚本とした映画を次々と製作。マキノ雅弘の『次郎長三国志』を頂点として、山中貞雄、成瀬巳喜男、中川信夫、森一生、斎藤寅次郎、三隅研次、加藤泰らも含め、その傾向はTVの登場で急速に人気が衰える1950年代まで続いた。

浪曲は大衆芸能の王者として終戦後まで君臨するが、浪曲の物語に通底する義理人情、通俗的で情緒的な価値観は、近代的自我を目指した知識人、夏目漱石、芥川龍之介、永井荷風らに忌み嫌われ、文芸の世界では「浪花節」という言葉が否定的なレッテルとして最近まで頻繁に使われていた。

しかし、従軍画家を務めたことで戦争協力を問い詰められ、フランスから終生帰国することのなかった藤田嗣治がテープレコーダーに声で残した遺言のなかで、しばしば浪曲の節に乗せて語るほどに、浪曲は日本人に浸み込んでいた。

浪曲師・国友忠が「二葉百合子、三波春夫、村田英雄という人たちは、浪曲の自在性を生かし、それぞれ見事に独自の節調を作り上げて成功した、現代の浪曲家だ」と書いているように、浪曲は変容しつつも日本人のDNAを受け継いできた。この特集企画は、いわば私たちのDNAを探り当てる旅でもある。

注記

- ① 浪曲 ② 映画 公演は「映画+浪曲」か「映画」の2種類です（各回入替）。浪曲だけの観覧はできません。また、全席指定制ですので予約はお早めに！
- ユーロライブ
■ ユーロスペース

6月1日(月) 販売開始

ユーロスペース公式ウェブサイト、ユーロスペース窓口にて販売

①映画+浪曲／活弁のみ 「元禄忠臣蔵 前後編」	一般2,400円／学生・会員2,000円／高校生1,200円
②映画のみの回	一般1,400円／学生・会員1,200円／高校生800円
回数券（一般のみ）	10,000円（1,000円券10枚綴り）

同伴者との共通使用可。ユーロスペース窓口のみにて、6月1日より発売。
①は1,000円券2枚、②は1,000円券1枚で入場できます。
その際、座席指定券との引換えが必要です。

●学生・会員料金の方は、要証明書提示●浪曲だけの観覧はできません●特別興行につき、シニア料金はありません

◎オンライン・チケット <http://www.eurospace.co.jp/>

●各種クレジットカードでのご購入いただけます●ご鑑賞前に劇場ロビーにある専用発売機でチケットをお受け取りください。発売機が混雑する場合もあります。早めのご来場をお勧めします。

6.26金曜日

11:00

12:00

13:00

14:00

15:00

16:00

17:00

18:00

19:00

20:00

21:00

12:15 ① 元禄忠臣蔵
開 演 監督＝溝口健二 脚本＝依田義賢
出演＝河原崎長十郎、中村斯右衛門
前編 111分 -休憩- 後編 112分



※料金の欄を参照。

©松竹

16:40 ② 韋駄天数右衛門 ★弁士付き上映
開 演 監督＝後藤松山
弁士＝坂本頼光/三味線伴奏＝沢村美舟

① 不破数右衛門の芝居見物
浪曲＝玉川太福 曲師＝玉川みね子

19:00 ③ 赤穂義士伝—倭星玄蕃
開 演 浪曲＝玉川奈々福 曲師＝沢村豊子

③ 忠臣蔵 暁の陣太鼓
監督＝倉橋良介
出演＝近衛十四郎、森美樹

6.27土曜日

12:15 ④ 母の瞳
開 演 監督＝安田公義
出演＝三益愛子、松島トモ子、伊丹秀子

③ 義士銘々伝—安兵衛婿入り
浪曲＝五代目天中軒雲月 曲師＝伊丹秀敏

14:30 鼎談「伊丹秀子の記憶」
五代目天中軒雲月×浜乃一舟×玉川奈々福
※12:15または15:30の回の入場券が必要です

15:30 ④ 悲恋静
開 演 浪曲＝浜乃一舟 曲師＝沢村美舟

⑤ 母の湖
監督＝小石栄一 出演＝三益愛子 口演＝伊丹秀子

17:50 浪曲映画傑作選1
開 演 呼子星
監督＝吉村廉
出演＝三益愛子、広沢虎造、寿々木米若、伊丹秀子

19:40 ⑥-1 母なき家の母
開 演 ⑥-2 祖国の花嫁
監督＝伊賀山正徳
口演＝二代目天中軒雲月(伊丹秀子)

Bプログラム

浪曲演目録——「義士銘々伝」四十七の別れ

浪曲において「中興の祖」と呼ばれる桃中軒雲右衛門(1872-1916)が得意とし、浪曲演目の定番となったのが、「赤穂義士伝」である。

元禄時代。江戸城・松之廊下で吉良上野介に刃を向けた赤穂藩藩主・浅野内匠頭が切腹を命じられ、お家断絶となった後、残された赤穂藩の家臣・大石内蔵助以下の四十七人の義士が主君の仇を討つ、いわゆる赤穂事件の事実を描く「本伝」、義士それぞれのエピソードを描く「赤穂義士銘々伝」、さらに周辺の人物を描く「赤穂義士外伝」がある。中には史実を大きく脚色もしくは創作されたものもあるが、世間の目を欺きみごと本懐を遂げる赤穂義士たちのストーリーは、判官晶辰、勧善懲悪、散りゆく者の美学と、日本人の琴線を震わせる物語の宝庫とも言え、繰り返し映画化もされた(大元は人形浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」)。「これぞ日本人のあるべき姿」を、映画と浪曲で存分に味わおうではないか。



6.28日曜日

11:30 浪曲映画傑作選2
開 演 赤穂義士
監督＝荒井良平
出演＝寿々木米若、梅中軒篤重、富士月子、玉川勝太郎

13:15 ⑦ 国定忠治 監督＝松田定次 出演＝阪東妻三郎
⑧ 国定忠治と火の車お萬 浪曲＝京山幸太 曲師＝一風亭初月

鼎談「浪曲の未来」
京山幸太×真山隼人×入江 悠(映画監督)
※13:15または16:15の回の入場券が必要です

16:15 ⑨ 越の海物語 浪曲＝真山隼人 曲師＝沢村さくら

⑩ 雷電 監督＝中川信夫 出演＝宇津井健

18:30 ⑪ 続雷電 監督＝中川信夫 出演＝宇津井健

Cプログラム

浪曲の未来——上方の若き俊才たち

浪曲界にも、大谷翔平世代の逸材が関西から現れた。かつての“大衆芸能の王様”も、1960年以降浪曲師もまた志望者も激減する。今世紀に入り、待望の男性も含めた入門者が少しずつ増え始めたころに、浪曲界は最盛期の玉川福太郎を事故で、若手のホープ、国本武春を病で失う。しかし玉川奈々福が幅広い活動で知識層や他分野からも注目を集め、玉川太福はコント作家志望らしく、現代的な笑いで若者を浪曲に振り向かせている。そこに登場したのが、いま弱冠25歳の二人だ。10歳で浪曲に感動し、中学卒業と同時に入門、正統派の浪曲師として伝統芸能の継承を意識する真山隼人、大学在学中にデビュー、性的マイノリティを公言して女装写真をアップするなど、多彩な活動で若者の注目を集める京山幸太。さらに関東でも24歳の最年少浪曲師、国本はる乃に期待がかかる。彼らは新しい観客とともに浪曲をどこに連れて行くのだろうか。

6.29月曜日

11:50 ⑨ 召集令
開 演 監督＝渡辺邦男
口演＝東家染燕

13:30 ⑩ 忠次旅日記 デジタル復元版
開 演 監督＝伊藤大輔 出演＝大河内傳次郎
弁士＝坂本頼光 三味線伴奏＝沢村美舟
-休憩-

声帯模写活弁 国士無双
監督＝伊丹万作 出演＝片岡千恵蔵
弁士＝坂本頼光 三味線伴奏＝沢村美舟

16:50 浪曲映画傑作選3
開 演 新佐渡情話
監督＝清瀬英次郎 口演＝寿々木米若

18:30 ⑫ 虎島の棒杓り
開 演 浪曲＝玉川奈々福 曲師＝沢村豊子

「片岡千恵蔵とチャンバラ映画」
トーク＝山根貞男

⑬ 春秋一刀流
監督＝丸根賛太郎 出演＝片岡千恵蔵

Dプログラム

浪曲と活弁と活動写真と

1930年代、映画は世界的にサイレントからトーキーへと移ってゆく。サイレント期には日本独特の活動弁士が映画製作の最終ランナーとして(劇場の片隅で)活躍していたが、その背景には、日本独自の語り芸文化(落語、講談、浪曲など)の存在があった。トーキーの登場以後、その最終ランナーを失った映画は、浪曲を背景に流す「浪曲映画」という新手を見出す。寿々木米若の人気浪曲「佐渡情話」を日活が映画化して大ヒットし、続々と浪曲映画がつくられるようになる。まず浪曲師が観客に向けて挨拶をするところから始まるというスタイルが示すように、それらは「浪曲が流れる映画」というより「映像がついた浪曲」であった。それは、サイレント期において、時に映画よりも活動弁士が主役たり得たこと(周防正行「カツペン!」)に描かれているような)にも似ている。映画の自由さが大いに発揮された活力みなぎる時代だったと言える。

6.30火曜日

12:10 浪曲映画傑作選4
開 演 世紀は笑ふ
監督＝マキノ正博
主演＝広沢虎造

14:10 ⑬ 岸壁の母
開 演 監督＝大森健次郎
出演＝中村玉緒、二葉百合子

16:10 ⑭ 母の瞳
開 演 監督＝安田公義
出演＝三益愛子、松島トモ子、伊丹秀子

18:00 ⑮ 浪曲師になってしまった!—浅草木馬亭の浪曲師たち
開 演 監督＝伊勢哲

鼎談「浅草木馬亭」
鼎談＝大利根勝子×玉川太福×伊勢哲

⑯ 男はつらいよ
浪曲＝玉川太福 曲師＝玉川みね子

⑰ 梅山家の縁談
浪曲＝大利根勝子 曲師＝玉川みね子

Eプログラム

浅草木馬亭 根岸京子席亭 追悼

昨年末、浪曲唯一の定席「浅草・木馬亭」の席亭、根岸京子さんの訃報が流れた。3年半ほど前まで元気に木戸に座り続け、浪曲の灯を守り続けた「おかみさん」だった。映画監督根岸吉太郎氏のご母堂でもある。木馬亭を運営する根岸興行部は、明治時代から浅草に多くの劇場、映画館を建て、浅草オペラなども含め、東京の大衆文化の中心を担った会社で、京子さんはその5代目。戦争を挟んだ数十年間、大衆に最も支持されていた浪曲は、その後急速に衰退、定席が消えたあとの1970年に夫・浜吉が木馬亭の名で復活させた。しかし経営は厳しく、客席に数人という日も続いたが、浪曲の砦として多くの浪曲師、曲師を育ててきた。その十数年前の記録が「浪曲師になってしまった!—浅草木馬亭の浪曲師たち」。今や浪曲界を牽引する玉川奈々福、玉川太福らが、大利根勝子師匠や根岸京子席亭らの暖かい眼差しの中で成長する姿が写されている。



※浪曲口演は約30分 ※「鼎談」を観覧いただくには、前後いずれかの入場券が必要です。整理の都合上直前のプログラムのお客様を優先しますので、直後のプログラムのお客様は空いている席にお座りください。

浪曲師と曲師紹介

浪曲師 天中軒雲月

岐阜県郡上市八幡町出身。1968年四代目天中軒雲月に入門して月子を名乗る。1974年岐阜県郡上八幡にて「名披露目年明け披露」、1981年名古屋・御園座にて「東西顔見世豪華浪曲名人大会」幹部昇進披露。2008年五代目天中軒雲月を襲名。現在(一社)日本浪曲協会理事。師匠ゆずりの「赤穂義士銘々伝・安兵衛婿入り」ほか、忠臣蔵の外伝、「佐倉義民伝」「決戦 巖流島」などを手掛ける。



©朝堂義典

浪曲師 伊丹秀敏

1935年佐賀県杵島郡生まれ。85才。浪曲師/曲師。1945年に伊丹秀子(二代目天中軒雲月)にあがれて入門。初舞台は8歳の頃に九州八幡の黒崎劇場で、「美しい声と誰かが聞こえてくる」巧みな節遣いの名人であり、おそろく曲師史上一番沢山の浪曲師を弾いて来た名人(祝85歳伊丹秀敏記念公演「うしろ」)。2018年下町人間庶民文化賞受賞。



浪曲師 大根根勝子

「大根根勝子は五つの時に、流行り病をわずらって、三日三晩の高熱で、危うく命は助かるも、母の姿も見えぬ目に、咲き誇る花の薫りて春を知り、秋の夜長の虫の声、耳を傾けしめじみとも、聴いてくださる皆様の、熱い眼差し五体を受けて、行く末長くご晶屑を、高座ながらも願います」(自己紹介の外題付け)



浪曲師 玉川奈々福

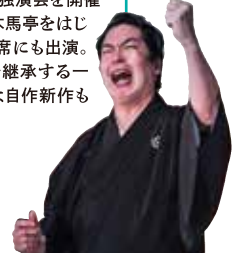
神奈川県横浜市出身。1995年二代目玉川福太郎に曲師浪曲三味線として入門。2001年より浪曲師としても活動。2006年奈々福で名披露。さまざまな浪曲イベントをプロデュースする他、自作の新作や長編浪曲も手掛け、他ジャンルとの交流も多岐にわたって行う。(一社)日本浪曲協会理事。2018年文化庁文化交流使として、中欧、中央アジア七か国で公演を行った。第11回伊丹十三賞受賞。



©森孝一

浪曲師 玉川太福

新潟県新潟市出身。2007年、二代目玉川福太郎に入門して太福を名乗る。同年11月、浅草木馬亭にて初舞台。2013年、浅草木馬亭にて名披露目。2015年 第一回渋谷らくご創作大賞、2017年第72回文化庁芸術祭 大衆芸能部門 新人賞受賞。年間50公演を超える独演会を開催し、浪曲定席木馬亭をはじめ、落語の定席にも出演。古典の名作を継承する一方、さまざまな自作新作も手掛ける。



©by bozzo

浪曲師 真山隼人

1995年鈴鹿市生まれ。15歳で二代目真山一郎に入門。2011年16歳で一心寺門前浪曲寄席でデビュー。2014年10月真山誠太郎門下へ移籍したのを機に曲師沢村さくらと二人三脚の舞台を務めるようになり、2018年文化庁芸術祭新人賞を受賞。円山応挙二名刀稲荷丸二西村権四郎等の古典演じる傍ら、自身で書いた新作浪曲「ビデオ屋の囃聲「うんこ」なども手がける。



浪曲師 京山幸太

1994年生まれ。大学在学中に二代目京山幸枝若の浪曲教室に参加し、2014年5月、国立文楽劇場「浪曲録声会」にてデビュー。2015年1月、阿倍野区民センターにてデビュー披露口上・公演。2019年浪曲界初R-1ぐらんぷり出場。古典浪曲を磨く一方、音源・ダンス・小道具・衣装なんでもありの「超」新作浪曲を手掛ける。



活動写真弁士 坂本頼光

1979年東京生まれ。中学2年頃より映画熱にとりつかれ、活動写真弁士を志す。2000年「鞍馬天狗」前篇の説明でデビュー。以降、時代劇作品を中心に全国各地でライブを行い、現在までの説明作品は約1200本。2019年にエル・ダ・ホカ、米田五大学の公演に参加。アニメの声優やCMナレーションなどもこなす。2018年国立演芸場花形演芸大賞受賞。



曲師 沢村豊子

福岡県大牟田市出身。1948年、11歳で佃雪舟に三味線の筋のよきを見込まれ浪曲界入り。山本艶子に師事。佃雪舟の曲師として全国を巡業。17歳で国友忠の「浪曲教室」に参加。以来国友忠の相三味線となり、主に放送浪曲で活躍。三波春夫、村田英雄などの曲師も務めたレジェンド。



©森孝一

曲師 玉川みね子

酒田市出身。一代目玉川福太郎との結婚を機に、1976年に山本太二に入門。1978年木馬亭で初舞台。以後は福太郎の弟子・玉川太福をはじめ多くの演者と共演TV・ラジオにも出演している。



曲師 沢村さくら

千葉大学在学中より浅草木馬亭に通い、2000年に沢村豊子に弟子入り。同年11月「国友忠の会」で初舞台。2005年以降は大阪を中心に活動。また曲師にスポットを当てた「曲師の会」や、一日に三カ所て公演する「あべの浪曲フェス」なども主催する。



曲師 一風亭初月

大学卒業OLを経て1998年に曲師・藤信初子に入門。2000年ワッパ上でデビュー。浪曲師・春野恵子とともに世界にも浪曲の魅力を発信している。またTVやラジオでも活躍中。



曲師 沢村美舟

1989年生まれ、千葉県は佐倉市出身。義太夫から三味線に興味を持ち、木馬亭に通ううち浪花節に魅せられる。2015年に日本浪曲協会主催の三味線教室に通い、同年6月曲師沢村豊子に入門。翌年4月木馬亭にて初舞台。



「浪曲映画祭—情念の美学2020」

主催:ユーロスペース 企画:ユーロスペース+シネマ5

企画監修:玉川奈々福

映画提供:国立映画アーカイブ、KADOKAWA、日活、松竹、

神戸映画資料館、東宝、国際放映、伊勢哲

協力: [] 国立映画アーカイブ

ローカルツアー

「映画ミーツ浪曲2020」沖縄、中国・四国、東海地方で企画中!

「映画ミーツ浪曲2019」は大分、北九州、熊本、京都、大阪、神戸、横浜、深谷、高崎で開催

PLACE 会場

ユーロライブ/ユーロスペース

渋谷駅下車、Bunkamura前交差点左折

渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 2F/3F

問合せ:03-6675-5681/03-3461-0211

<http://eurolive.jp/>

<http://www.eurospace.co.jp/>

